

評議会議事録 昭和三十年二月十九日(土)

学長 小岩井 山崎 大林 久曾神
 全員出席 板倉 三好 大内 小幡 杉本 浅野

一、 華日辞典の件

新中国より旧東亜同文書院大学に於て編輯中の華日辞典のカードを送付して来たが文部省より補助金三百万円位をうけて編纂する件について、

・ 内山正夫氏招聘の件
 ・ 熊野正平氏の計画によれば一六〇〇万円の資金を集めて財団法人をつくり編纂する。

・ 此のカードは接收財産の返還されたものでなく郭沫若氏宛返却の文書を出したところ日中友好協会内山完造氏宛「日本人民に贈る」として届けられたものである(中国人民対外文化協会より)

・ 熊野正平氏案では一橋大学に事務所を置く計画であるが唯金をかけて印刷するだけでは趣旨に添はない。

・ 本年二月四日、日中友好協合理事長伊藤武雄氏文化部長を同伴来豊し協議の結果「日中友好の趣旨を尊重し、中国側の識者も若干入れ日本各方面の協力を求めて刊行の暁には何千部か中国にも寄贈する様に運びたい。」

右の趣旨を熊野氏に連絡したところ此のカードは

・ 東亜同文書院に残された唯一の文化財であり、書院の卒業生で刊行したいと言ふ様な話も出たが本年三月より本学に暫定的に編纂に取りかかることにした。

従って人件費、会議費、資料費等もかかる。

最小限度の暫定的規約を作ったのが別紙である。

(1) 内山正夫氏を国研の助教授又は教授として招聘し、辞書の編纂に専従してもらおう。

(2) 四月に編輯会議を開く。

(3) 国研三十年度予算に計上すること。

(4) 内山正夫氏の住宅は一応向山旧小西氏跡にする。辞典は国研で刊行する。文部省より研究費の補助をうけるが大学としても予算に計上の必要があるので一応評議会メンバーの了解を求める。

二、 選出評議員の改選について

[注] この部分が追記されている。